



北海道森林管理局 指導普及課だより

平成21年10月
第15号
〒064-8537
札幌市中央区宮の森3-7

間伐体験 水源地ツアー

～平成21年度森林ふれあい推進事業を実施



↑初めての間伐体験

↓工場見学



◇第1回森林くらぶ 「間伐材のゆくえ～道産材を使おう！エコロジカル体験ツアー～」(7月11日)

第1回森林くらぶは、間伐について知ってもらおうと、参加者35名に、苫小牧国有林の27年生エゾマツ人工林において実際に間伐を体験してもらいました。初めは、ノコの使い方や受け口・追い口の角度などに戸惑っていましたが、協力し合いながら

進めるうちに、楽しく作業を行うことができました。

また、間伐により出る間伐材がどう活用されているのかを知るために、苫小牧市内の製材加工(株)ヨシダを見学しました。(株)ヨシダでは、道産材を中心に扱っており、原木が様々な大型機械を通過して木材となる様子を紹介していただきました。

ツアーではこの他に、支笏湖周辺の平成16年台風被害地を見学したり、国有林0Bで現在「樽前山ろく森学舎」の代表をされている佐々木昌治さんから、樽前山麓での森づくりの歴史についてご講話いただきました。参加者からは、間伐が楽しかった、製材工場がすごかった、などの感想が聞かれ、有意義な一日を過ごされた様子でした。



↑佐々木氏講話

↓全員集合でばっちり

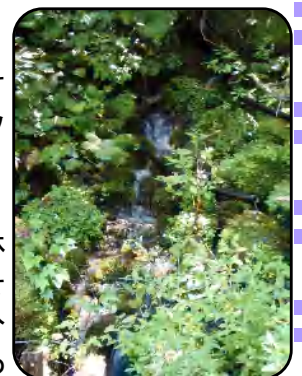


◇第2回森林くらぶ 「札幌定山溪水源地ツアー」(9月5日)

札幌市民の飲料水等の97%は豊平川水系より取水されています。その上流に位置する森林のほとんどは国有林で、水源かん養など重要な役割を果たしています。今回のツアーでは、水源の森百選にも選ばれている定山溪国有林を案内しました。

斜面から水が溢れてくる水源、名前の付いて無い秘境の滝、漁入沢低ダム群、また、定山溪の森林と地域の発展の関わりについての歴史を説明しながら、天然林施業指標林の見学も行いました。指標林では、直径1mもあるアカエゾマツに驚きの声が絶えませんでした。また、この周辺では珍しいとされるアカエゾマツの天然更新地では、30分程かけてゆっくりと散策をしましたが、オシロイシメジを発見するなど、最後には思わぬ嬉しいプレゼントがありました。

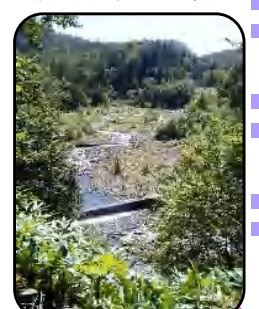
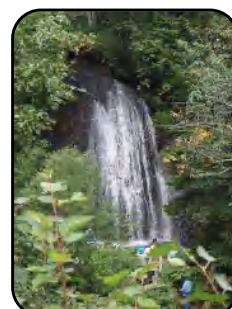
参加者からは、普段見られない森林を見ることが出来て良かったとの声が多く聞かれました。



↑林道そばの水源



←水源地バックに集合 ↓足立主任官のレクチャー ↓滝



↓漁入沢低ダム群



ウッディホールでふれあい



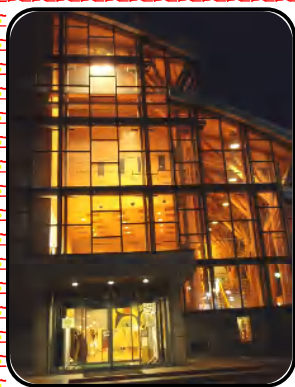
平成21年度は、「木漏日の小径」をイメージした局1階ウッディホールを活用したイベントを3件実施し、多くの方々にご来場いただきました。

島に咲け 永久に レブンアツモリソウ写真展

4月13～24日、礼文島の自然保全の啓蒙活動として、礼文島の固有種であるレブンアツモリソウなどの高山植物の写真と、現地での保全活動の紹介パネルを展示しました。



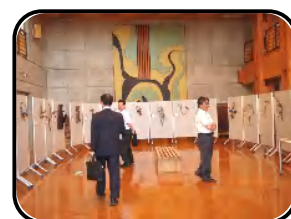
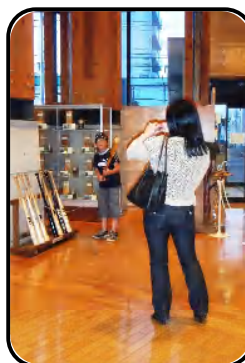
写真は、礼文島在住の写真家杉田美野里さんが撮影したもので、卵のような花を付けるアツモリソウの写真の前に、長らく見入る人が多くいました。保全活動パネルでは、盗掘問題の歴史を乗り越え、現在はグリーンサポートスタッフや地元ボランティアの方々の巡視活動により見守られている様子を紹介し、保全活動の大切さを学んでいただきました。



7月17日のカルチャーナイト2009の開催と併せて、13日～17日には布工芸作家高橋幸子さんのご協力をいただき、約20種類の野鳥の作品を展示しました。

作品は、布を染めたり100枚以上の布で羽を作ったりと、大変鮮やかで細部まで表現されており、本物そっくりに作られていました。カルチャーナイトでは、会場にヒントが隠されているクイズに答えて下さった方には記念品をお渡しするなどし、子供たちにも大変好評でした。来場者は会場にあるアオダモバットや樹種展示を熱心に見たり、「前からこの建物に入ってみたかった」ということで、この機会に来場される方もいるなど、賑やかな夕べとなりました。

布クラフト「北海道の野鳥」作品展 ～布による野鳥の立体作品～



きのこを知って 楽しむ写真展

NPO法人藻岩山きのこ観察会のご協力をいただき、9月7日～18日に藻岩山周辺で見られるキノコ約100種類の写真を解説付きで展示し、14日午前には同会場においてキノコ鑑定会を実施しました。

キノコが多く発生する時期だったこともあり、テレビ局やラジオ局で放送され、大変多くの方にご来場いただきました。鑑定会では、庭に生えたキノコを持って来る人や、山で見かけたキノコを携帯電話の写真で撮り、持って来る人もいました。本物のキノコの展示も好評で、来場者はキノコを手に取りながら、スタッフに懸命に質問を投げかけていました。

同会の中田理事長は、「食中毒被害を防ぐために、名前の分らない野生キノコは絶対に食べないで下さい。」と話していました。



↑鑑定中
←Air-G'生放送!
↓NHK取材中

